

坂下中学校区における学校統合に向けた第2回意見交換会 議事録

1 開催日時

令和7年11月1日（土）午前10時～午後0時20分

2 開催場所

神屋小学校 体育館

3 参加者数 45名

【事務局】

春日井市教育委員会		部長	森本 邦博
〃	学校教育課	主幹	梶田 傑
〃	〃	指導主事	湯浅 公
〃	〃	課長補佐	深見 健司
〃	〃	主査	安田 和志
〃	〃	主事	杉山 太一

4 議題

坂下中学校区における学校統合に向けた検討について

5 会議資料

坂下中学校区における学校統合に向けた検討について

午前 10 時 開会

1 開会

【教育部長あいさつ】

日頃より市政にご理解とご協力をいただき、御礼申し上げます。

小中学校の適正な規模や配置について検討を進めるため、これまで、坂下、藤山台、高森台、石尾台、岩成台の5つの中学校区において、保護者や地域の方を対象にアンケートを実施し、また、学校ごとに意見交換会を実施してきたところです。

本市では子どもたちの急増に対応するため、昭和 60 年度までに学校の新築や増築を急ピッチで行ってきました。ところが、今や全国的に少子化が進む中、本市でも子どもたちの数が減少しており、この先、小学生は令和 13 年度で、ピーク時から 56.5%の減少、つまりは半分以上になっていきます。坂下中学校区においては、さらに大きな割合で減少し、坂下小学校はピーク時から 84.6%の減少、西尾小学校は 82.5%の減少、神屋小学校は 78.1%の減少になると推計しています。皆様と同様に私も驚いているところです。

本日の意見交換会では、今後のあり方について具体的な方向性をまとめるにあたり、地域の皆様の声をお聞きしたく実施するものです。これまでに第1回の意見交換会を実施し、多くのご意見をいただいています。それぞれの地域性があると実感しています。一方で、坂下地区については、春日井市に合併前の旧坂下町地区として地域のまとまりやつながりがありますので、本日の意見交換会では、他の中学校区に比べ、少し踏み込んで市の考え方を提案させていただこうと思っています。

学校は、地域の皆様にとって、防災や住民同士の交流の場など地域に根ざした施設ですが、何よりも将来を担う子どもたちが学び成長していく大切な場です。まずは、子どもたちにとって学校がどうあるべきか、何が最善であるかという視点に立つことが重要であると考えています。どうなっていくか不安なことは多いと思います。一方で、新しくなるかもしれない学校の姿に大きな期待を抱くこともたくさんあるかと思います。皆様と一緒により良い学校の姿を考えていけたらと思います。

本日は皆様の率直なご意見をお聞かせくださいますようお願い申し上げまして挨拶とさせていただきます。

2 議題

(1) 坂下中学校区における学校統合に向けた検討について

【事務局】

I 小中学校の適正規模等の取組について（資料 1 ～ 4 ページ）

- ・日本の人口は減少局面に入り、全国的に出生率が減少する中、本市においても同様に、子どもたちの数の減少が進んでいる。
- ・本市の小学生の人数は、昭和 56 年度の 30,636 人をピークに、令和 13 年度には約 57%減少の 13,312 人に、中学生の人数については、昭和 61 年度の 15,330 人をピークに、令和 19 年度には約 59%減少の 6,221 人になると推計している。
- ・子どもたちの数の減少により、今後、標準的な規模を下回る学校が増えていくことが想定される中、子どもたちが集団の中で多様な考えに触れ、互いに認め合い、協力し合いながら成長し、社会性を身に付けていくためには、一定の学校規模を確保することが望ましいと考えている。将来を見据え、子どもたちにとってより良い教育環境を実現するために、学校の適正規模や適正配置について検討を進めている。
- ・本市では、今年の 2 月に「小学校・中学校の適正規模等の基本的な考え方」を策定した。その中で、国の基準を参考に、規模が小さい学校について、クラス替えができるかどうかの視点から、学校規模の区分を設けた。学級数の基準については、現行の 1 学級あたりの児童生徒数の基準で推計しており、小学 1 年生から中学 1 年生までは 35 人、中学 2 年生及び 3 年生は 40 人としている。また、資料の 2 ページには、児童数が一定の基準を下回る学校において、複数学年の児童を同じ学級として編成する「複式学級」の基準について記載している。
- ・規模が小さい学校の主なメリットは、次のことがあげられる。
 - ① 一人ひとりの学習状況や学習内容の定着状況を的確に把握でき、補充指導や個別指導を含めたきめ細かな指導が行いやすい。
 - ③ 様々な活動において、一人ひとりがリーダーを務める機会が多くなる。
 - ⑥ 異年齢の学習活動を組みやすい。体験的な学習や校外学習を機動的に行うことができる。
 - ⑦ 地域の協力が得られやすいため、郷土の教育資源を最大限に活かした教育活動が展開しやすい。
- ・規模が小さい学校のデメリットのうち、学級数が少ないことによる主な課題については、次のことがあげられる。
 - ① クラス替えが全部又は一部の学年でできない。
 - ③ 教員の加配なしには、習熟度別指導など、クラスの枠を超えた多様な指導形態がとりにくい。
 - ⑦ 体育科の球技や音楽科の合唱や合奏のような集団学習の実施に制約が生じる。
 - ⑩ 教科などが得意な子どもの考えに、クラス全体が引っ張られがちとなる。

- ・規模が小さい学校のデメリットのうち、教職員数が少なくなることによる主な課題については、次のことがあげられる。
 - ① 経験年数や専門性、男女比などのバランスの取れた教職員配置やそれらを活かした指導の充実が困難となる。
 - ③ 児童生徒の良さが多面的に評価されにくくなる。多様な価値観に触れさせることが困難となる。
- ・規模が小さい学校のデメリットのうち、学校運営上の課題が児童生徒に与える主な影響については、次のことがあげられる。
 - ① 集団の中で自己主張したり、他者を尊重したりする経験を積みにくく、社会性やコミュニケーション能力が身につけにくい。
 - ③ 協働的な学びの実現が困難となる。
- ・クラス替えが可能になることによる主なメリットは、次のことがあげられる。
 - ① 児童生徒同士の間関係や、児童生徒と教員との人間関係に配慮した学級編成ができる。
 - ② 児童生徒を多様な意見に触れさせることができる。
 - ③ 新たな人間関係を構築する力を身に付けさせることができる。
 - ⑥ 学級の枠を超えた習熟度別指導や学年内での教員の役割分担による専科指導などの多様な指導形態をとることができる。
- ・本市は、全学年でクラス替えを可能としたり、学習活動の特質に応じて学級を超えた集団を編成したり、同学年に複数の教員を配置するためには、小学校、中学校ともに、1学年に2学級以上あることが必要であると考えている。そこで、どの学年もクラス替えができない「過小規模校」や、一部の学年でクラス替えのできない「小規模校」について、過小規模校を優先に、通学区域の変更や学校の統合などにより、適正規模の確保に努めるように検討することとしている。
- ・中学校区で見た場合に、将来すべての小学校が「過小規模校」又は「小規模校」になると推定される、坂下・藤山台、高森台、石尾台、岩成台の5つの中学校区にある学校を最優先に検討を進めている。
- ・これまでの取組として、今年度に入り、小中学校のPTA役員の皆様への説明・意見交換をし、次に、保護者や子どもたち、地域の方へのアンケートを実施した。その後、対象の中学校区にある17校で第1回意見交換会を実施した。

Ⅱ 児童生徒数推計について（資料5～6ページ）

- ・中学校では令和19年度まで、小学校では令和13年度までは、令和7年度の0歳から5歳の子の実際の人口に基づき推計している。令和22年度は、市が人口の現状

分析などから将来の人口動向を推計した「人口ビジョン」と言われる計画から推計している。

- ・坂下中学校は、今年度、生徒数 348 人、10 学級で、学校規模は、小規模だが全学年でクラス替えのできる「やや小規模」である。今後は、令和 11 年度に一時的に「適正規模」になると推定されるが、それ以降、生徒数及び学級数は減少し、学校規模としては「やや小規模」で推移すると推定される。
- ・坂下小学校は、今年度、児童数 422 人、14 学級で、学校規模は「適正規模」である。今後は、児童数、学級数ともに減少し、令和 12 年度から、クラス替えができない学年がある「小規模」に、令和 22 年度では、全学年でクラス替えができない「過小規模」であると推定される。
- ・西尾小学校は、今年度、児童数 57 人、6 学級で、学校規模は「過小規模」である。今後、児童数は減少し、令和 9 年度から一部の学年が、令和 22 年度では全ての学年が複式学級であると推定される。
- ・神屋小学校は、今年度、児童数 155 人、7 学級で、学校規模は「小規模」である。今後は、児童数、学級数ともに減少し、令和 10 年度以降は「過小規模」となり、児童数はその後も減少すると推計される。

Ⅲ アンケート結果について（資料 7～10 ページ）

- ・「1 学校の適正規模等に取り組むことについて」のうち、「1 学年に 2 学級以上となるように、学校の適正な規模や配置に市が取り組むことについて」の質問では、「ぜひ進めるべき」又は「進める方がよい」と回答された「賛成」の方の割合は、坂下小学校、西尾小学校、神屋小学校の 3 校を合計した小学校「全体」の保護者で 61.8%となっている。地域の方も小学校単位で集計しており、地域の方は 78.4%の方が賛成と回答している。また、坂下中学校の保護者は、69.6%が賛成と回答している。
「進めない方がよい」又は「進めるべきではない」と回答された「反対」の方は、小学校全体の保護者で 9.4%、地域の方で 9.8%、坂下中学校の保護者で 4.4%となっている。反対の理由として、保護者の方は、小学校、中学校ともに「登下校の時間や方法」を心配する方が多く、地域の方は「地域と学校の関係が希薄になるから」と多くの方が心配している。
- ・前の質問で「賛成」と回答した方のうち、「ご自分の子どもが通う学校、又はお住まいの地域の学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて」では、小学校、中学校ともに「賛成」の割合が、保護者、地域の方のいずれも高い比率となっている。

- ・「2 複数学級を望む声について」では、複数学級が望ましいと考えている小学生の保護者は 96.4%、小学生では 82.6%となっている。また、中学生の保護者は 99.3%、中学生では 99.0%となっており、小学校、中学校ともに、多くの方が複数学級が望ましいと考えている。
- ・「3 学校生活において重要と思うこと」では、児童生徒は、「クラスが変わって、新しい友達がたくさんできること」や「体育大会などの行事でクラスに活気があること」が大事だと考えている。地域の方は「多くの子どもたちによる人間関係の広がり」や「子どもたちの登下校」が重要と考えている。
- ・「4 魅力ある学校づくりを進めるため、学校の規模や配置を見直す場合に重要と思うこと」では、保護者の方は、「子どもの人間関係に広がりがあること」や「子ども一人ひとりの状況に応じたきめ細かな教育」が重要と考えている。地域の方は、「子どもたちがより良い教育環境で学校生活が送れること」をととても多くの方が重要と考えている。
- ・「5 学校の適正規模等の取組において心配なこと」では、保護者の方は、登下校に関して心配と考えており、登下校については安全性や時間が重要と考えている。

IV 意見交換会でのご質問・ご意見について（資料 11～18 ページ）

- ・坂下中学校での意見交換会は 10 月 1 日に開催し、参加者は 11 人であった。坂下中学校での質問は、「統合に関することについて」が 4 件、「スケジュールについて」、「通学バスについて」などがそれぞれ 1 件の合計 9 件であった。

その中から質疑応答の主なものを紹介する。

12 ページの質問No.1「3つの小学校を統合して、新しい学校はどこにつくるのか。」との質問では、「仮に統合する場合、既存の学校の土地を活用することになると考えますが、どこの土地を活用するかは、それぞれメリット、デメリットがありますので、皆様としっかり議論していきたい。」と回答している。

質問No.4「坂下中学校は残るのか。」との質問では、「坂下中学校の推計は「やや小規模」で推移すると考えられますので、その推移を見守ることとします。」と回答している。

13 ページの質問No.9「小学校の体育館は避難所に指定されているが、統合されるとどうなるのか。」との質問では、「子どもたちの教育環境の向上を第一に考えて取り組む必要があると考えており、跡地に関することについては、別で検討を進めていきたい。」と回答している。

- ・坂下小学校での意見交換会は 9 月 16 日に開催し、参加者は 18 人であった。坂下小学校での質問は、「今後の具体的な検討の進め方について」と「アンケートについて

て」がそれぞれ3件、「少人数学級について」が2件、「スケジュールについて」や「複数クラスを推奨する理由」などがそれぞれ1件の合計13件であった。

その中から質疑応答の主なものを紹介する。

14 ページの質問No.4「小学校1クラスあたり35人という基準から人数を減らすことでクラス替えができるようになるのではないか。」との質問では、「本市の1学級あたりの人数は、愛知県の基準と同様に、小学校の全学年及び中学1年生は35人、中学校2、3年生は40人としており、その基準をもって教員数が配置されています。1クラスあたりの子どもの数を減らしてクラス数を増やしても教員数が増えないことから、市独自で学級数を定めることは難しい。」と回答している。

質問No.5「今後のスケジュールを教えてほしい。」との質問では、「具体的な日程は決まっていません。今後、保護者や地域の方の代表者などと、協議会のようなものを設置した上で、具体的に検討していく予定です。学校を新たに作ったり、改修したりするとなると5年近くかかると想定されることから、まずは市と皆様との合意形成を図り、スピード感をもって具体的なスケジュールを決定していきたい。」と回答している。

15 ページの質問No.9「未就学児の保護者などの学校の適正規模の取組の影響を受けると考えられる世代にはアンケートを実施したのか。」との質問では、「坂下地区とニュータウン地区内の公私立保育園、私立幼稚園、認定こども園に協力をしていただき、未就学児の保護者の皆様にもアンケートにご協力いただきました。」と回答している。

- ・西尾小学校での意見交換会は9月19日に開催し、参加者は16人であった。西尾小学校での質問は、「資料内容について」、「複式学級について」、「地域の過疎化について」などがそれぞれ1件の合計8件であった。

その中から質疑応答の主なものを紹介する。

16 ページの質問No.2「複式学級のメリットとデメリットは何か。」との質問では、「メリットとしては、クラスの人数が少ないので教員が子ども一人ひとりの状況を把握しやすくなります。デメリットとしては、1人の教員が2学年分の授業やその準備を行う必要があり、教員への負担が大きくなることや、子どもたちにとっても、教員が異なる学年の児童に対応した授業も行うことから、授業に制約が生じ、きめ細かな授業を受けられない可能性があります。」と回答している。

質問No.4「取組のモデルとしている市はあるのか。統合で成功している地域はあるのか。」との質問では、「近隣市では、小牧市や瀬戸市の例を参考にしています。瀬戸市の「にじの丘学園」のように、魅力ある学校を作ったことにより転入者が増え、地域の活性化につながった事例もあります。」と回答している。

質問No.8「バスの利用を検討するとのことだが、どのような運用形態になるのか。」との質問では、「具体的には決まっています。他市では、既存のバス路線の利用やスクールバス導入の事例などがあります。市がバスを所有し直営で運用している事例や委託の事例もあるため、今後検討していく必要があります。」と回答している。

- ・神屋小学校での意見交換会は9月18日に開催し、参加者は17人であった。神屋小学校での質問は、「今後の具体的な検討の進め方について」が5件、「スケジュールについて」や「通学について」などがそれぞれ1件の合計11件であった。

その中から質疑応答の主なものを紹介する。

17ページの質問No.3「統合以外の選択肢はあるのか。」との質問では、「通学区域の変更の方法もありますが、規模の小さい学校同士では学校規模の改善にはならないため、現在の学校数を残す選択肢は難しいと考えています。」と回答している。

質問No.4「統合する場合、1学年の人数が増えることで学童に入れるかが心配。対応はどうするのか。」との質問では、「子どもの家は放課後児童の安全な居場所として重要であり、新しい学校で子どもの家が運営されることが望ましいと考えています。今後、学校の適正規模等の検討を進めていく中で、子どもの家の担当部署と連携し検討していきたい。」と回答している。

- ・質問No.6「説明などが抽象的であると思う。複数案を提示するなど、具体的に示してほしい。」との質問では、「今後、具体的な検討を進めることになりましたら、市から皆様にいくつかの案を提示するとともに、皆様からも意見をいただきながら、検討を進めていきたいと考えています。」と回答している。

V 坂下中学校区における基本方針（案）について（資料19ページ）

- ・「1 児童生徒数推計」から、
 - (1) 坂下中学校は、基本的に「やや小規模」で推移すると推定される。
 - (2) 小学校においては、令和22年度では、坂下小学校と神屋小学校は全学年で学級数が1学級の「過小規模」であり、西尾小学校においては、全学年で複式学級の編成が推定される。
- ・「2 アンケート結果」から、
 - (1) 学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて、賛成意見が多く、複数学級を希望する意見が多い。
 - (2) 保護者は、子どもの人間関係に広がりがあること、児童生徒は、クラス替えで新しい友達がたくさんできること、地域の方は、子どもたちがより良い教育環境で学校生活を送れることが重要と考えている。
 - (3) 学校の規模や配置を見直す場合に、多くの方が登下校に関し心配している。

- ・「3 地域の特性」として、
 - (1) 坂下中学校区は、隣接する中学校区と地形的に隔たりがある。
 - (2) 春日井市に合併前の旧坂下町地区として、地域のつながりがある。
 - ・「4 意見交換会」では、
坂下中学校区の各学校の参加者から、学校を統合する場合のスケジュールや今後の具体的な検討の進め方、バスの導入についての質問が多くあった。また、具体的な統合案を示してほしいなどの意見もあった。
 - ・これらのことを踏まえ、坂下中学校区における今後の方向性となる「基本方針」の策定を進めていく。基本方針の案は、次のとおりとする。
 - 1 坂下中学校は、現時点では他の中学校との統合はしないものの、今後の生徒数の推移を見守ることとする。
 - 2 小学校は、坂下小学校・西尾小学校・神屋小学校の3校の統合に向けて、具体的な検討を進める。
- 検討にあたっては、登下校についてバスの利用などの通学手段、また、子どもたちや地域にとって、魅力ある学校づくりに留意する。
- なお、基本方針の策定にあたっては、パブリックコメントの実施を予定している。

VI 坂下中学校区の学校づくりを考える懇談会（資料 20 ページ）

- ・今後は、坂下中学校区で保護者や地域の代表の方、学校の関係者などで構成する「坂下中学校区の学校づくりを考える懇談会」を組織し、具体的な検討を行っていく。懇談会の構成員は、学校長、公立保育園長、私立保育園・幼稚園長、PTA、未就学児保護者、区長・町内会長等、地域コーディネーター、学校評議員、地区社会福祉協議会の方々に参加いただくことを考えている。

3 意見交換

【質問 1】

坂下小学校での意見交換会の質問の中で、小学校3つを統合し、新しい学校を坂下中学校につくると受け取ったが、小学校の校舎を中学校の敷地内に建てるとなると、運動場が半分となり狭くなるが子どもの成長の面などは大丈夫か。

【事務局】

統合する場合、どこの学校を使うかは決まっていません。今の坂下中学校の場所を使い小中一貫校を設置することも考えの一つとしてあることをお示ししています。

【質問 2】（神屋小学校区）

統合する場合、通学距離が遠くなる子が多くなると思うので、保護者が送迎することが多くなる。なかよし教室の利用など働いている保護者のことを考え、新しい学校をつくるときには駐車場や学校内の道路について検討してほしい。

【事務局】

第 1 回意見交換会でも、送迎について多くのご意見をいただきました。統合するとなると、通学区域が広がるので通学バスについて検討する必要があると考えており、あわせて学校内の駐車スペースについても検討していきたいと考えています。

【質問 3】（坂下小学校区）

基本方針案の検討の部分、通学バスの検討については関心が高い。検討するにあたって、いつまでにどこの事例を参考に決めていくのか。

【事務局】

学校を統合するにあたって、どこの場所に統合した学校を設置するかによって、通学の距離が変わってきます。また、統合した場合、子ども全員がバス通学することは考えていません。ある一定の距離や坂などの地形も考慮し検討したいと考えているため、いつまでにとすることは決定していません。

事例については、瀬戸市や小牧市の事例を参考にしており、瀬戸市では既存のバス路線を活用しています。他市の情報も皆様に提供していきながら、坂下中学校区の子どもたち、保護者の方たちにとって最善の方法を考えていきます。

【質問 4】

通学バスについて、通学距離に加えて、下校時間なども考慮しないといけない。学年別の下校時間など様々だと思うので、丁寧に考えていってほしい。

【事務局】

学年で下校時間が異なるため、バスの便数などについても皆様と検討していきたいと考えています。

【質問 5】（神屋小学校区）

統合するにあたって、学童や通級指導教室、特別支援学級を心配している。子どもの数が増えることになるが、先生が子どもたちを適切に把握することができるか。

また、統合するとなれば、遠距離になる子どももいることから、ウェブを利用した遠隔授業の方法もあると思うが、どのように考えているか。

【事務局】

学童については、放課後の児童が安全に過ごせる場として、子どもの数は減少傾向

向でも利用する方が増えています。子どもの家は、新しい学校において運営されることが望ましいと考えているので、子どもの家の担当部署と連携して検討していきたいと考えています。また、通級指導教室、特別支援学級については、統合すると子どもの人数が増え学級数も増えるので、クラス数に応じた教員が配置されます。統合が難しい学校では、ウェブを利用した遠隔授業や学校間の交流が検討されることもあります。坂下中学校区は学校の統合を考えていることから検討していません。

【質問 6】（坂下小学校区）

どこに学校が作られるにしても、子どもにも運転者にも安全面に配慮した通学路を設定してほしい。

【事務局】

通学について、保護者はアンケートの結果からも安全性を心配していることがうかがえます。新たな学校の通学路の設定については、子どもたち、運転者の安全に配慮したいと考えています。

【質問 7】（坂下小学校区）

統合することにより、子どもの数は増えるが、特別支援学級など個別支援が必要になるケースはどうなるのか。

【事務局】

特別支援学級は1学級8人以下で編成され、それに応じた教員が配置されます。本市では、個々の対応が必要になる場合は、市独自で県からの教員の配置とは別に支援員を配置する事業も行っています。支援員の配置の拡充なども、新しい学校づくりの検討の際にご意見やご要望をいただければと考えています。

【質問 8】（神屋小学校区）

開校まで最短でも5年くらい必要という話で、自分の子どもに影響がある可能性がある。詳細なスケジュールがわからないと不安である。第1回意見交換会から市の具体的な案がない。学校の場所がどこになるかで、住民の意見が変わると思う。具体的な案がないと何を意見したらよいか考えられない。場所やスケジュールを具体的に教えてほしい。

【事務局】

現在は、学校統合に向けて意見交換をしている段階であり、具体的な案はありません。まずは、基本方針の案を策定し、具体的なことは、その後の懇談会で話し合っていきたいと考えています。令和8年度くらいには、ある程度詳細についてお示

しできればと考えていますが、統合に向けた課題等によって、スケジュールが変わってくることもあると考えています。

【質問 9】（神屋小学校区）

新しい学校の場所や取組の時期など時間のかかる大がかりなことだと思う。検討では、地域性を考える必要がある中で、魅力ある学校づくりをどう考えているか。

【事務局】

統合するにあたり、悲観的に考えるのではなくて、将来の子どもたちのために魅力ある教育について検討し、地域の活性化も期待できる学校づくりを皆様と一緒に検討していきたいと考えています。

【質問 10】（坂下小学校区）

子どもが複数いて、小学校と保育園や幼稚園に通わせている保護者がいると思う。小学校と同じように保育園等はどう考えているか。

【事務局】

子どもの数が減る中でも、保育園に通わせたいという保護者は多くなっていると認識しています。公立保育園については、入園状況をみながら再編成をしていくことはあり得ますが、坂下地区の保育園がどうなるかは未定であり回答しかねます。

【質問 11】（神屋小学校区）

統合について決まっていない部分もあると思うが、子どもたちのケアのために、統合前に共同で運動会を実施するなど、統合する場合の子どもたちの負担についても配慮してもらいたい。

【事務局】

学校を統合するにあたり、子どもたちが不安を抱えないようにするため、統合する前に、学校間で子どもたちが交流できる機会を積極的に設けることなどを検討したいと考えています。

【質問 12】（神屋小学校区）

統合した後の廃校になる学校施設の活用方法を聞きたい。また、当該施設をバスの発着点としたり、学童として使ったりすることができないか。

【事務局】

跡地について、過去に藤山台地区で3校統合した際は、2校の跡地をグループふじとうとノキシタプレイスとして活用しています。教育委員会としては、子どもた

ちの教育環境の向上を検討し統合を進めていきたいと考えており、跡地については市全体で別に検討していきたいと考えています。

バスの発着点については、子どもたちの体力面の向上も考えて、全く歩かないことは避けたいと思っています。学童については、子どもたちが移動することがないように、新しい学校の中で運用されることが望ましいと考えていますが、いただいた意見も参考に今後検討していきたいと考えています。

【質問 13】（坂下小学校区）

統合することにより、地域から学校がなくなることになる。跡地については、地域の今後に関わるので、学校がなくなることと同時に考えないと地域が廃れてしまう。西尾小学校のアンケート結果をみると、西尾地区の方々の意見をもっと聞いてほしい。急いで3校を統合することはどうかと思う。

【事務局】

統合することが決定したわけではありません。今後、懇談会の話し合いの中で、統合を進めてほしくないという総意があれば、見送る可能性もあります。西尾小学校区の方に限らず、坂下小学校や神屋小学校の方とも意見交換をしていく中で、皆様と協議させていただければと考えています。

【質問 14】（神屋小学校区）

統合する場合に体操服や上ぐつなどの学校用品が新しくなるとすると、現在の学校用品が無駄になるかもしれないので、連絡を早くしてほしい。

【事務局】

保護者の方に余分な負担が掛からないようにしたいと考えています。

【質問 15】（神屋小学校区）

低学年の子どもたちの気持ちや意見も聞いて、保護者と地域の方と情報共有してはどうか。

【事務局】

アンケートは小学3年生以上の子どもたちにご協力いただきました。今後、直接子どもたちから話を聞く場を設けて、保護者や地域の方と情報共有することについては、必要に応じて開催を検討したいと考えています。

【質問 16】（神屋小学校区）

今後、懇談会で協議していくとのことだが、市の企画部門の職員を構成員に入れることはできないか。バス路線や市のまちづくりについても考えることになるので、

教育委員会だけでなく、市の企画部門の職員も参加してほしい。

【事務局】

跡地の活用やバスの運用、また学校が避難所になっていることなどもあり、今も市の関係部署とは情報共有を行っています。懇談会は地域の方のお話を聞く場ということに重きを置いているので、市の職員を構成員とすることは考えていませんが、その時々議題などにより、必要に応じてオブザーバーとして参加依頼を検討したいと考えています。

【質問 17】（西尾小学校区）

統合については、子どもの環境が変わることや、先生の目が行き届かなくなるかもしれないなどの保護者にとって心配なことがあると思うが、意見交換会のことを知らない親がいた。今日の資料を学校から保護者に渡してもらおうとよいと思った。

【事務局】

今回の意見交換会については、保護者の方に Home&School を利用して周知させていただきました。紙の資料を保護者全員に配ることは難しいですが、データとして Home&School で送付することはできると思うので、今後の情報提供のあり方を検討していきたいと考えています。

【質問 18】（西尾小学校区）

スケジュールに関して、統合の目標時期を示してもらわないとスムーズに協議が進まないと思う。

【事務局】

市としては、子どもの数が減っていく現状の中、早く解決すべきと考えています。しかし、市が単独で統合を進めることはできないと考えていますので、皆様と意見交換をする中で、可能な限り早く取り組んでいきたいと考えています。

【質問 19】（西尾小学校区）

西尾小学校の周りは農地が多いが、その農地を宅地に変えることは制限されている。まちづくり全体を考えて、市の横のつながりをしっかりしてほしい。

【事務局】

市街化調整区域など都市計画の分野についても、当該計画を所管する部署との情報の連携を行っていきます。

【質問 20】（神屋小学校区）

統合の時期が決まらなると保護者は参加しようと思わない。市としての考えを示した上で、話し合いを進めた方が意見を出しやすいと思う。

【事務局】

市が一方的に決める進め方はよくないと思っているため、皆様と統合するかを含め意見交換をしたいと考えています。今後、懇談会で詳細について協議していきたいと考えています。

【質問 21】（神屋小学校区）

懇談会は限られた方で構成されとのことで、懇談会で場所等の詳細を決めることができて、意見交換会では決定できないというのであれば、意見交換会を開催する意味があるのか。

【事務局】

今回の取組については、子どもたちの数が減る中ですぐ取り組む必要があると考えていますが、ハードルが高い問題で皆様と丁寧に議論する必要があります。現在は、皆様からの意見を受け止めて検討する段階だと考えています。また、懇談会は詳細を決定する場ではなく、そこで挙げた意見も参考にしていきたいと考えています。

なお、懇談会の構成員でなくとも、傍聴者として参加していただき、書面などで意見を出していただく方法も考えています。また、今後にも必要に応じて、意見交換会を開催することも考えています。

【質問 22】（神屋小学校区）

場所の検討などについては、地域性があるって話がまとまらない可能性もある。学校区単位で話をまとめるのが先だと思うが、その機会を設けることについてはどう考えるか。

【事務局】

意見交換会や懇談会だけでなく、PTA役員や地域の方々との意見交換など、必要に応じてそれぞれの単位でも開催を検討したいと考えています。

【質問 23】（坂下小学校区）

小中一貫校について、小学校と中学校を同じ敷地に作ることは大きな話だと思うので、このメリット、デメリットを検討してもらいたい。

【事務局】

小中一貫校については魅力ある学校づくりの一つの手法だと考えています。メリ

ット、デメリットを検討し、皆様にお示ししながら、協議したいと考えています。

【質問 24】（神屋小学校区）

検討については、どのようなスケジュールで進められる予定か。パブリックコメントはどのように実施されるのか。

【事務局】

基本方針の案を策定した後に、パブリックコメントを坂下中学校区だけでなく、市全域に対して実施します。パブリックコメントは、市が政策などを決定する際に、広く市民に意見を募るもので、インターネットの活用や公共施設での閲覧などで実施します。また、パブリックコメントの回答は公開します。実施は2月から3月を予定しており、その後、基本方針を策定します。基本方針の策定後に懇談会を開催していくことを考えており、懇談会は来年度の開催を予定しています。

【質問 25】（西尾小学校区）

市の具体案が示されていない。また、この取組について、各自治区の区長さんを集めて意見を聞いていない。意見交換会の周知のチラシについても、周知してほしい旨の依頼があってから、2週間では回覧できない場合もある。意見交換会をやるのであれば、議題を明確にして周知する必要があると思う。開催の仕方を考え直すべきだと思う。

【事務局】

意見交換会の開催や周知の方法については、ご意見を踏まえて進めていきたいと考えます。

【質問 26】（西尾小学校区）

他市の事例があるとのことだが、他市の説明会であった意見や事例を説明してもらおうと我々もイメージしやすい。同じ疑問点があると思う。

【事務局】

他市の担当者の方とは情報交換しています。そこで得た情報を皆様にも提供させていただき、共有したいと考えています。

【質問 27】（坂下小学校区）

意見交換会の3回目以降が開催されるのであれば、坂下中学校区の具体案を示した上で意見等をいただく方が議論が前進すると思うしスムーズに検討が進むと思う。

【事務局】

本日の意見交換会では、市として統合に向けて検討するという言葉を初めて使いました。本日いただいたご意見を踏まえて、市の具体的な考えを提示できるように進めていきたいと考えています。

【教育部長総括】

本日はたくさんのご意見をいただきました。市が気付いていなかった部分も多々あります。本市としては、子どもたちの数が減っている中、クラス替えができない学校を解消したいと考えています。クラス替えができない状況で、仮に1年生で人間関係に問題が起きると、6年間ずっと同じ人間関係であり、非常に厳しい環境になってしまいます。そのような問題もなんとか解消したいと思います。やはり少なくとも1学年に2クラスの学校をつくるのが、子どもたちにとって、より良い教育環境になると考えます。

スケジュールについて、市の考えが示されていないという意見がありました。この取組はナイーブな問題で、ハードルの高い問題と認識しており、現時点では、市として具体的な方針を決めるタイミングではないと思っています。今回のような意見交換で皆様のお考えをお聞きすることによって、方向性が決まってきます。議論を重ねることによって、市として、最も良い方法を提示したいと思っています。

スピード感については、すぐにでも対応していきたいと考えています。今、5つの中学校区で検討を同時に進めている中で、地域性がある、まとまらない地域も出てくる可能性もあります。地域でまとまったところについては、すぐに着手したいという意気込みでいます。スクールバスや駐車場などについても、今後、懇談会でより具体的に検討を進めていきたいと考えています。今後も、地域の皆様、保護者の皆様から広くご意見をいただく場を設定したいと考えていますので、その際にはご協力をお願いします。

まちづくりや跡地利用に関する意見もありました。地域のためには、必要な視点で同時に考えていかないといけないと思います。関係する課と連携しながら、必要に応じて担当職員を懇談会に同席させることも考えます。一方で、地域づくりの視点がメインになってしまうと、子どもたちにとってより良い教育環境をどうすべきかという議論が難しくなるので、子どもたちの教育環境の向上を最重要な点として、進めていきたいと思っています。

地域の皆様には、意見交換会の開催の配慮が行き届かなかったことについて率直にお詫び申し上げます。今後については、地域の皆様と情報交換する場も必要に応じて設けていき、議論していきたいと思っています。難しい課題ではありますが、引き続きご理解、ご協力を賜りたいと思います。

4 その他

【事務局】

- ・今後の進め方について、アンケートの結果や2回の意見交換会でいただいたご意見などを参考に、教育委員会で坂下中学校区における基本方針の策定を進めていく。基本方針の策定後、「学校づくりを考える懇談会」を組織し、より具体的な検討に入っていきたいと考えている。
- ・「学校づくりを考える懇談会」は原則公開することとし、傍聴ができるように検討している。開催日時等については、市ホームページでお知らせするほか、保護者の方へはHome&Schoolで、地域の皆様へは回覧板でお知らせする。
- ・本日は坂下小学校で地域の大規模な行事が開催されており、そちらに参加されている方も多いと思うので、改めて、第2回意見交換会を11月22日（土）午後2時から午後4時まで、坂下小学校の体育館において、今回と同じ内容で開催する。

5 閉会

午後0時20分 閉会